

シリーズ「本にまつわる、先輩からのメッセージ」第2回

千葉ロッテマリーンズ ^{ふくう}福浦 ^{かずや}和也さん（第35期）



「クラブナイン少年野球教室」開会式を前に
習志野市・宮本泰介市長、
千葉ロッテマリーンズ・大松尚逸選手（左）とともに

福浦和也さんの登場です。

福浦さんの入学は、1991年（平成3年）4月、卒業は1994年（平成6年）3月です。ドラフトにて千葉ロッテ入団。入団後は投手から打者へ転向し、2001年には打率.346でパ・リーグの首位打者になり、それ以降6年間打率3割オーバーも達成しました。また、ベストナイン賞、ゴールドenクラブ賞など数々の表彰も受けています。千葉ロッテ一筋に23年目。元中日ドラゴンズ選手だった谷沢健一（第7期 1966年3月 習高卒）さんに続けと、今シーズンは2,000本安打の達成が待たれるところです。

習高3年生時の担任は、山田明先生でした。（習高2014年3月まで勤務。現在、千葉県立千葉商業高等学校勤務）コメントをいただきました。

「何事にも一生懸命で、まじめな生徒でした。特に野球に関しては、彼はエースでしたからね、入れ込んでいましたよ。私の願いは、日本プロ野球名球会へぜひとも入ってもらいたい、ということです。打者で2,000本安打を達成すれば入れますからね。」

シーズン中はお会いできないだろうと、まだ寒い1月末、実籾小学校グラウンドで開催される『第14回クラブナイン少年野球教室』にお邪魔させていただきました。この会は、福浦さんが習志野市にある少年野球チームから、市内中学・習志野高校へと野球を続けプロ球団へ入団したことから、お世話になった習志野市へ恩返しをしたいという思いがあり、その思いを受けて立ち上げたボランティア団体です。福浦さんの背番号「9」から、「Club Nine クラブナイン」（<http://Clubnine9@yahoo.co.jp>）という名称となり、その冠がついた教室です。

上記のようにもう14回目を迎え、習志野市でも長い歴史を持つ小学6年生を対象とした野球教室です。今回も、100名以上の児童が参加しました。（報告が遅くなり申し訳ありません）

プロ野球選手は皆、自主トレーニングに体を動かしているところでした。福浦さんも、2月1日からの沖縄県石垣市のキャンプへ向かう直前の時期でした。一問一答の形で、紙媒体でお答えをいただきました。以下が、福浦さんからのメッセージです。

Q. 本校在籍時についてお尋ねいたします。

※どれくらいの頻度で、習高図書館に行きましたか？

滅多にいきませんでした。授業のためだけだったかもしれません。

※高校生時代によく読んでいた本のジャンルを教えてください。

スポーツ関係書で、野球の技術本などです。基本は授業などで指示される以外は、なかなか本を手に取りませんでした。部活動で野球をしていましたので、野球の技術本を読み、何かヒントはないか探していた記憶があります。

※当時の図書館についておぼえていること、エピソードなどを教えてください。

図書館に入ると独特な匂いがあって、特別な空間という感覚がありました。

※当時の習高図書館について、今振り返って思うことを書いてください。

正直、授業などで指示されない限り、行くことはありませんでした。今思うと、もっと利用していろいろな本を読む時間を作るのも良かったかと考えています。



Q. プロ野球選手になってからの読書についてお尋ねいたします。

※読書について環境や意識に変化はありましたか？

はい。

※変化とはどういうものですか？

これまではほとんど勉強以外では活字に接することがありませんでしたが、プロに入ると移動などの時間があるので、読む機会は増えました。

Q. 読書について、現在のお考えをお尋ねいたします。

※読書が職業に与える影響には、どんなものがあると思いますか？

読まないよりは読んだほうがいいとは思いますが、私の職業においてはあまり深い関連性はないと思います。ただ読むことで人生が深まるのは間違いないのではないかと、この年になって感じるようになりました。

※プロ野球選手の身体のスキルアップには、どんなことが大切だと思いますか？ どのような事をなさっていますか？

トレーニングの日々、継続。同じことを最低半年は行うなど、地道な練習をひたすら継続し、1年後などに結果が出てくるものだと思います。

※ケガなどの体調不良の時、何を考えて何をしますか？

慌てないで今できることをする。いろいろ考えて、今の自分に出来ることはなにかを見つけ出し、それをひたすら実践する。

※現在よく読む本のジャンルを教えてください。理由は？

正直、今でもあまり読む方ではないのですが、あえていうのであれば歴史ものですかね。NHK大河ドラマをよく見ているので、そこから好奇心が湧いて、読むことが多いです。



**Q. 現在の習高生がより自分自身を向上するために、何が
できると思いますか？ また、図書館はそのために何
をするべきだと思いますか？**

※人との出会い同様、本との出会いも大切と考えます。習高生に
薦めるジャンルはありますか？

お薦めのジャンルは特にありません。読めると思うもの、読
みたいと思うものを読むべきだと思います。

※習高生が自己実現のために、今しなければならないことはなん
だと考えますか？

高校の3年間で有意義に過ごす事。無駄な時間を過ごさないで
ください。

※習高図書館でできることはどんなことだと思いますか？

図書館には沢山の本があるので、せっかくなので読みたいと思
う本、読めると思う本を探してみるのはいかがでしょうか？ そ
こから興味が広がる可能性もあると思います。



Q. 後輩である習高生にメッセージをお書きください。

3年間は長いようであつという間に過ぎます。一日一日を大切に過ごしてください。そして悔いのな
い高校生活にしてください。

Q. なんでも結構です。今、考えていることや、感じていることをお書きください。

千葉ロッテマリーンズの選手として優勝する事、そして千葉を盛り上げる事に集中をしています。

Q. 最後に、あなたにとって、読書とは、本とはどういう存在ですか？

もう一度、高校生に戻れたら、もっと読書にチャレンジしてみたい。そう思える存在です。

ありがとうございました。



クラブナイン関係者が、話しかけてくれました。「この教室から、プロ野球選手を輩出することが
我々の悲願でもあり、福浦選手の望みでもあると思います。」時々冷たい風が吹く中で、福浦さんは大
きな体からは想像もつかないくらい優しい口調で、わかりやすく体を使って、子供たちの指導に当たっ
ていました。

最後に、福浦さんの教室の感想をお伝えします。

「毎年、地元の子供たちに野球を通して少しでも貢献し
たいとの思いで行っています。少しでも子供たちが喜ん
でくれたらうれしいです。」

クラブナインの皆様をはじめ、千葉ロッテマリーンズ
の大松選手にもお話を伺いました。ありがとうございました。ご活躍をお祈りいたしております。

福浦先輩、現役生活 30 年を目指して頑張ってく
ださい！ 応援しています！



子どもたちを見つめて。大松選手とともに